

# 札幌広域圏の概要

## 1 地 勢

札幌広域圏は、北海道中央部のやや西寄りに位置し、東西約70km、南北120kmにわたる面積約3,540km<sup>2</sup>の圏域です。中央部を東西に流れる石狩川流域には肥沃な石狩平野が広がり、古くから稲作の中核地帯であると同時に、札幌を中心とした大都市圏を形成しています。

南西部は、森林資源や自然環境に恵まれた支笏洞爺国立公園の一部をなし、また北西部は日本海に面した自然美豊かな地域です。

## 2 人 口

圏域の人口は、約238万人（平成30年1月末日現在）で、全道の人口が減少しているのに対し、当圏域は増加しています。

## 3 産 業

圏域の就業構造は、右表に示したとおり第3次産業就業者の割合が圧倒的に高く、逆に第1次産業の就業者の割合は1%強に過ぎません。しかし、町村部では第1次産業就業者が約22%を占めています。

	就業者人口（人）	構成比（%）
第1次産業	11,541	1.2
第2次産業	155,692	16.1
第3次産業	797,322	82.7

（平成22年国勢調査）

### 第1次産業

圏域の農業は稲作が中心でしたが、近年は、小麦、豆類や野菜、花き、畜産など多角化、複合化が進んでいます。また、耕地面積は、全道の3.6%となっています。

水産業は、日本海沿岸漁業が中心で、生産量で全道の0.3%、金額で0.6%とその占める割合は小さいものの、多種類の魚介類に恵まれています。

林業は、圏域面積の59%が森林ですが、国有林が7割を占め、伐採等の林業生産活動は相対的に低い地域です。

### 第2次産業

圏域の工業は、北海道の中心都市である札幌市とその近郊に集積しており、事業所・従業員数のいずれも全道の2割以上を占め、製造品出荷額で1兆円を超えています。中でも、業務用機械器具の製造品出荷額は全道の約63%、印刷・関連は約69%、さらに電気機械器具にいたっては約73%を占めています。

### 第3次産業

圏域の卸・小売業は、全道の事業所数の約35%、年間商品販売額は約62%を占めており、札幌市を中心に集積が進んでいます。

また、圏域の観光は、国際観光都市である札幌市や新千歳空港を有するほか、支笏洞爺国立公園、海岸などの魅力的な自然や、豊かな食、温泉など豊富な観光資源に溢れています。観光客数（延べ人数）は圏域が全道の約2割相当の約2,450万人を占め、道内外はもとより、台湾、中国、香港など東アジアをはじめ海外からも多くの観光客が訪れています。

（石狩管内概要 2017）